



地元の味覚と 笑顔あふれる2日間

第53回久慈地方産業まつりが10月4日と5日の2日間、アンバーホールで開催され、約2万1千人が来場しました。

オープニングセレモニーでは、来場記念品として先着200人に柿をプレゼント。地元産の野菜や郷土料理の販売のほか、原木シイタケの植菌や重機の操作体験なども行われ、来場者は秋の恒例行事を楽しみました。

久慈育ち琥珀サーモンや山形村短角牛のお振る舞いも行われ、来場者はさまざまな味覚を堪能。琥珀サーモンを試食した久慈保育園の金沢碧大さん(あおい)は「お魚が大きく、やわらかくておいしいです」と笑顔を見せました。

4日には、久慈翔北高等学校の生徒が市内のパン製造販売店と共同で製作した、久慈育ち琥珀サーモンフォカッチャ風パンを特別販売。販売前から行列ができ、開始後すぐに完売しました。同校2年生の門舛到和さん(かんと)は「多くの人に地元食材を知ってもらおうきっかけになってよかったです」と自信を深めました。

不思議なファッションショー「NEWナニャドヤラ」

9月28日、あーとびる麦生で着物やリメイク服などをスタイリングしたファッションショーが開催され、約20人の演者が、ナニャドヤラを取り入れたパフォーマンスで観客を魅了しました。出演した長内中学校1年生の柏崎葉奈さんは「動きのメリハリや振り付けの見せ方を練習しました。たくさんの人に見てもらえて一番楽しかったです」と笑顔を見せました。



衣装をまといパフォーマンスをする演者

■企画展「パプアニューギニアの子どもたち」

あーとびる麦生では、戦没者遺骨収集事業に従事している荻原洋聡さん(ようさう)が、活動を行ったパプアニューギニアの子どもたちが描いた絵を展示しています。展示期間は11月末まで。ぜひ来場ください。



展示されている子どもたちの絵



集合写真を撮る各団体の代表者

地域の寄付でつなぐ活動

10月10日、北三陸じもつと基金寄付金交付式がアンバーホールで開催されました。第10回の今回は約180万円の寄付が集まり、9団体が目標を達成。事務局のやませデザイン会議久保田敏晴議長から各団体に目録が手渡されました。久保田議長は「活動を続け、地元根を伸ばしみんなで頑張っていきたいと思います」とあいさつしました。

1/制帽をかぶりバスのハンドルやボタンの操作を体験 2/久慈商工会議所が高校生と事業者をつなぎ、共同で製作したパンの特別販売 3/ちびっこ防犯隊に任命された畑田保育園の園児 4/自転車型ロボット「ムラタセイサク君」の操作を体験する来場者 5/先着200人に振る舞われた久慈育ち琥珀サーモン 6/交通安全コーナーでゴーグルを付けて酔った状態の視界を体験

